

提案名	A-3 産業（観光業・漁業）復興の取組		○位置図 
テーマ	⑥ 海洋問題・漁業 ⑦ 貿易・投資・観光		
対象	首脳夫妻		
実施場所	小名浜港1・2号埠頭周辺 (アクアマリンふくしま、小名浜魚市場、いわき・ら・ら・ミュウ等)		
会場からの移動手段	車		
会場からの所要時間	片道約 30 分 ※視察等の時間は弾力的に設定可能		
提案趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ●市内有数の観光施設の視察と、それぞれの施設の歩みやコンセプトなどの説明を行い、サミット参加国の産業復興の参考としていただく。 ●また、いわき市は東日本大震災とその後の原発被害の影響により、観光交流人口が震災前の年間 1,000 万人台から 300 万人台まで落ち込み、その後の官民挙げての懸命な取組により約 800 万人まで回復し、今後は震災前を超える水準まで達しようと努力している。 ●水産業においては、魚市場などの漁業施設が壊滅的な被害を受け、さらには原発事故による出荷制限や風評被害を受けているにもかかわらず、復活に向けた準備を一步一步進めている。 ●このような震災からの産業復興に向けた取組を国内外にアピールすることにより、風評払拭や観光誘客の一助としたい。 		
実施内容	小名浜港周辺のアクアマリンふくしま（パラオサンゴ礁センターの友好館）や、いわき・ら・ら・ミュウなどの施設を視察し、各施設のコンセプトや取組を説明する。		
期待できる効果	島 嶼 国	観光施設や魚市場などの取組を通じて自国の産業（特に観光業及び漁業）推進の一助としていただく。	
	被 災 地	本市の観光施設などをPRすることにより、本市の魅力を発信できる。	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ●アクアマリンふくしまは、平成 30 年 11 月、世界各地の水族館関係者が一堂に会し、研究成果の発表や情報交換等を行う第 10 回世界水族館会議を開催予定。 ●小名浜魚市場は、平成 27 年 3 月に整備が完了し、冷凍・加工施設の視察のほか、試験操業による水揚げがあれば、放射性物質検査の見学も可能。 ●埠頭周辺には、水産資源の保護増殖に関する試験研究・調査を行っている福島県水産試験場もあり、視察可能。 ●近隣のいわき海星高校では、(ソロモン諸島、クック諸島からの高校生文化交流を契機として震災後に結成された) 地元の伝統芸能「じゃんがら念仏踊り」のチームがあり、視察先での披露も可能。 ●子どもたちをはじめ、市民が最大限関わられるよう関係機関・団体と調整を図る。 		

●環境水族館 アクアマリンふくしま

黒潮と親潮がであう潮目の海—アクアマリンふくしまは、福島の海の大きな特徴である太平洋の潮目をテーマに、様々な視点から海の不思議を解き明かす新しいタイプの海洋ミュージアム。

子ども体験館「アクアマリンえっく」や、「アクアマリンうおのぞき～子ども漁業博物館」などの施設も新設され、子ども達に海を通じた「命の教育」の場を提供。また、同館は、パラオ珊瑚礁センターと友好館提携(H15提携)を行い、教育と保全に関する情報交換、飼育技術交流、水生生物交換、職員の交流を通じ協力している。



●いわき・ら・ら・ミュウ

館内はいわきの見どころ、遊びどころの情報ははじめ、せり気分で買い物ができる鮮魚店や、新鮮な海の幸を堪能できるレストラン、遊覧船のターミナルなどがあり、新しいポート小名浜の魅力を楽しむことができる。2階のライブいわきミュージアムでは、いわきの震災当時の様子から復興に至るまでを紹介する「いわきの東日本大震災展」、浮体式洋上風力発電の実証実験を映像・パネル・模型を用いて分かりやすく解説する「福島洋上風力交流センター」がある。



●小名浜マリブリッジ

小名浜港沖合に建設されている東地区国際物流ターミナル人工島と3号埠頭を結ぶ橋で、小名浜港港湾道路の一部をなす。全長927m。平成22年3月より建設が開始され、平成29年3月に竣工、同年4月13日に開通式典が行われた。橋名プレートは、いわき応援大使でもある書家・金澤翔子さんが揮毫を行った。



●小名浜魚市場

本県水産業の拠点である小名浜魚市場は、東日本大震災によりほとんどの建屋が崩壊した。場所を近隣に移し、生まれ変わった小名浜魚市場は、平成27年3月に竣工。地上5階建、延床面積9,000㎡。沿岸漁業の魚介類を取扱う高度衛生管理型市場と、大型漁船2隻同時に水揚ができる閉鎖型市場があり、日産50tの製氷能力と500tの貯氷能力を併せ持つ大型魚市場である。

